

第4回 光明台中学校区 学校適正配置意見交換会



日時：令和8年8月23日（日）

場所：光明台中学校

本日の次第

1. 前回の内容について
2. 通学対策について
3. 新校の建設場所について
4. 跡地活用について
5. 意見交換
6. 次回の予定について

1. 前回の内容について

光明台中学校区 未来の学校づくりニュース



6月6日(土)に3回目の意見交換会を開催しました。
今回から北小学校区、南小学校区を統合して開催！

意見交換会の主な内容

- なぜ施設一体型義務教育学校の導入をめざすのか
- 和泉市の施設一体型義務教育学校の校舎や設備について
- 施設一体型義務教育学校の跡地活用状況について
- グループワーク

※資料はこちら



なぜ施設一体型義務教育学校の導入をめざすのか

小学校の統合でも人数の確保にはつながりますが、施設一体型義務教育学校とすることで、より「小中一貫教育」の効果が高まります！

施設一体型義務教育学校になると



より多くの教員による
9年間を見通した教育

教科担任制の授業
を導入しやすい

柔軟な教育
課程編成

読み聞かせなど
異学年交流が促進

教員間の共通理解
が図られやすい

下級生の上級生への憧れ、
上級生の下級生への見守り
の意識の高まり

子どもの実態に合わせた、
柔軟でわかりやすい授業

和泉市の施設一体型義務教育学校の校舎や設備について

富秋学園や槇尾学園の施設や設備を紹介しました。

【富秋学園】



交流ラウンジ(イメージ)



- ・2階と3階の中央に配置
- ・オープンな空間で人と人をつなぐ交流の場に
- ・広い空間での学習や発表も可能

【槇尾学園】



メディアセンター



- ・学校の中心スペースにオープンな形で配置
- ・様々な異学年交流の場を創出

多目的室



- ・地域開放など、様々な目的に利用可能
- ・圧迫を感じないよう他の教室より天井高を確保

グループワークでの主な意見



児童生徒数が減少すると、クラス替えができず、教員数や専科の教員の確保も困難となるため、統合は必要。

単学級になると、加配教員が減少するなどデメリットが多い。

小学生に教科担任が増えると、先生と児童との深い関わりが失われないか。
→施設一体型義務教育学校でも、低学年は担任がしっかりと子どもと関わり、子どもの発達状況に応じて対応している。

小・中学校が同じ場所にあれば、先生同士で子どもの情報をしっかりと共有してもらえる。

魅力的な「学校づくり」と「まちづくり」をセットで考えてほしい。

良い学校にするため、地域が1つになり地域コミュニティを高めていきたい。

通学距離が2kmを超える児童には、バス通学の対応を検討することであるが、2kmを超えずとも、アップダウンのある場所から通う子に何かしらの対応ができないか。

通学距離が2kmを超えていても、体力向上という面では歩くのもいいのではないか。

子ども達にとってよりよい学校づくりをすることが、まちおこしに繋がる。

就学前の保護者向けに情報提供していく必要がある。

次回の予定について

今回の意見交換会で、施設一体型義務教育学校を導入する方向について整理できたため、次回は、学校の建設場所や跡地活用について詳しく取り上げていきます。

ニュースレターをメールで配信します！

ニュースレターの配信を希望される方は、右の二次元コードを読み取っていただき、お名前、「ニュースレター希望」と記載のうえ、メールを送信してください。



(問合せ先) 和泉市教育委員会事務局
教育部 教育総務課
(TEL) 0725-99-8196
(E-mail) komyodai@city.osaka-izumi.lg.jp

これまでに出了主な意見

施設関係

- ・現地建て替えならば、授業中はなるべく騒音が出ないよう配慮しながら工事してほしい。
- ・小中学生が互いに気を遣わず、のびのびと活動でき、安全が確保される学校にして欲しい。

通学関係

- ・統廃合により、学校までの距離が2kmを超える小学生はバス利用が可能となると聞いて安心した。
- ・通学バスに乗り遅れた子どもへの対応も必要ではないか。
- ・保護者が自家用車で子どもを送迎することを想定すると、乗降のための場所が必要。
- ・自転車のマナーの問題もあり、低学年への見守りが必要。
- ・スクールバスは、乗り遅れがないように子どもを引率する先生の負担がある。

学校の建設場所

- ・光明台中学校に新校を建設すると、コミュニティ体育館や緑地運動場が活用しやすくていい。
- ・光明台中学校での現地建替に賛成であるが、保護者の送迎による渋滞が多く、事故の危険性もあるため、ロータリー等の整備が必要。
- ・施設一体型義務教育学校にすることには賛成であるが、跡地がどう使われるのかが気になる。

2. 通学対策について

市の基本的な考え方

- ・学校の統廃合などにより場所が変わることで通学距離が長くなり安全面に配慮が必要となる児童についてはバス通学の対応を検討
→本市では小学生の通学距離が2kmを超える場合を目安として検討する
- ・バスの通学については
公共交通維持の観点から、以下の対応を基本とする
 - ①路線バス利用（通学定期代補助）
 - ②（①ができない場合に）スクールバスの導入

3. 新校の建設場所について

建設場所

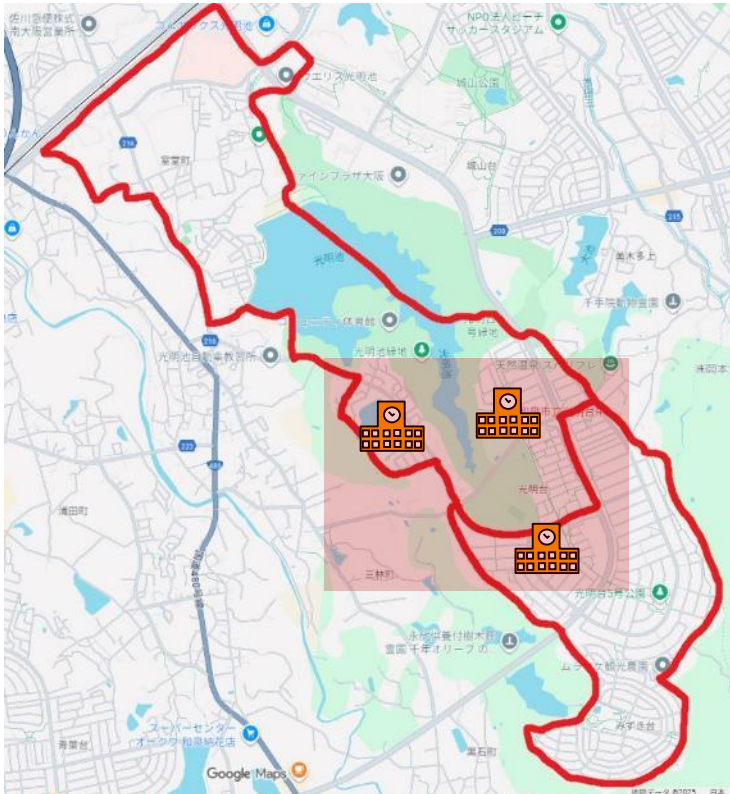
■ これまでの施設一体型義務教育学校の建設場所

学校名	開校時期	統合学校	新校建設場所	検討の視点
南松尾 はつが野学園	平成29年	南松尾小学校 南松尾中学校	はつが野地区 に新規設置	はつが野地区における開発に伴う 子どもの急増と南松尾小・中の 過小規模化を踏まえ、UR都市 機構の宅地造成により用地確保
槇尾学園	令和 7 年	横山小学校 南横山小学校 槇尾中学校	槇尾中学校 (現地建替)	市有財産の有効活用 横山・南横山小の両校区が通学 する場所で、敷地面積が広く、 良好なレイアウトが期待できた
富秋学園	令和 9 年 (予定)	幸小学校 池上小学校 富秋中学校	富秋中学校 (現地建替)	両校区の中央に位置していること や敷地面積を踏まえ、富秋中学 校区等まちづくり構想にて整理

建設場所

光明台中学校区の候補地

【校区全体マップ】



【学校周辺の拡大マップ】



学校の他に活用できる敷地がないため、既存校敷地での現地建替となる

建設場所

学校敷地について

学校名	敷地面積	航空写真	敷地の状況等
光明台中学校	27,001㎡		(利点) ・敷地面積は最も大きい ・両小学校の中間に位置 ・光明池緑地運動場に近く、工事期間中における活用がしやすい (懸念点) ・不整形で高低差がある ・工事車両の進入路確保やクラブハウス棟の解体等が必要か
光明台北小学校	22,006㎡		(利点) ・道路面からフラットで整形地 ・工事車両がグラウンドに直接進入でき、工事しやすい (懸念点) ・敷地面積が小さい ・南校区からは遠距離になる
光明台南小学校	22,063㎡		(利点) ・整形地 (懸念点) ・敷地面積が小さく、高低差がある ・北校区からは遠距離になる

建設場所

光明台北小学校



光明台南小学校



- いずれの小学校でも現地建替は可能
- 片方の小学校区からの通学は遠距離となる

光明台北小学校裏の山林を買収する案もあるが、現地建替が可能なため実施しない考え。
(理由)

- 山林には複数の持ち主があり、任意買収となるため、買収に応じてもらえない可能性がある
- 測量を行う必要があるが、隣接する土地の測量許可を得るだけでも相当な時間を要する
- さらに、測量を行うだけでも1年程度の期間が必要となり、開校が何年遅れるか見込めない

建設場所

■ 光明台中学校敷地での現地建替について



(懸念点)

- ・不整形で高低差がある
- ・工事車両の進入路確保やクラブハウス棟の解体等が必要か



業者や関係課と現地確認を行った結果

- ・ 擁壁の改修やクラブハウス棟の解体等の先行工事は必要
→ 現地建替は可能
- ・ 工事期間中の部活動や体育は緑地運動場を活用
- ・ 生徒は北通用門、西通用門を使うことで歩車分離も可能

4. 跡地活用について

学校跡地の活用について

はじめに

- 光明台中学校区における学校適正配置の検討に伴う学校跡地について、
現時点での具体的な活用方法は、未定です。
- 学校跡地を活用できる時期は、新しい学校の開校後に旧校舎を除却する場合、
約 10 年程度先になる見込みとなります。
- 本日は、公共施設の管理について、市の基本的な方針を共有させていただきます。
- そのうえで、現時点で考える跡地に求める機能について意見交換をお願いします。

学校跡地の活用について

富秋中学校区・槇尾中学校区の事例

◆富秋中学校区(ＪＲ阪和線 信太山駅から徒歩圏内)

池上小学校、幸小学校跡地は、サウンディング調査※の結果、市で建物を除却のうえ、

土地は民間事業者に売却又は貸付予定

→商業施設や戸建て住宅を誘致(一部町会による町会会館敷地の購入、老人集会所の移設あり)

◆槇尾中学校区(市街化調整区域で駅からの距離がある)

横山小学校の活用方法について、定住・地域活性化の観点で民間事業者にサウンディング調査※を実施

「戸建て住宅」や「校舎をリフォームしたファミリー向け集合住宅」、「陸上養殖や水耕栽培」、

「健康施設・セルフカフェ」、「エンターテインメント人材育成の学校」、「障がい者優先スポーツ施設」

などの提案がなされ、現在具体の案を検討中。

※サウンディング調査とは、民間事業者と対話し、市場性や活用アイデアや事業の可能性を把握する手法です。

跡地活用の基本的な考え方

全国的な課題として、人口減少や税収減少に備えた行政運営を行う必要があります。

市では、「和泉市公共施設等総合管理計画」を策定しており、その方針は以下のとおりです。

- 人口減少・税収減少に伴い、全ての公共施設を維持・更新することは困難で、令和29年度末（2047年度末）までに、公共施設の延床（建物）面積を30%削減する。
- 上記を踏まえ、公共施設を統廃合する場合の跡地は、民間への貸付や売却などの運用を行う。

新たな学校整備の財源確保

- ◆ 新たな学校整備には、多額の費用が必要となります。
(富秋学園では、約73億円)
- ◆ このことから、国の補助金以外の財源確保が必須であり、補助金とは別に財政的支援がある公共施設等適正管理推進事業債の活用が必要な状況です。

➤ 公共施設等適正管理事業債を活用するために国が示す要件

- ・施設等の統廃合に際しては、除却や他の団体・民間等への売却等が必要

※現在整備中の「富秋学園」でも当該事業債を活用し、約12億円の市負担を軽減予定。

跡地活用に関する基本的な方針

- 市が何らかの公共施設として活用する方向は、ありません。
- サウンディング調査といわれる市場調査を実施しながら、地域が活性化するような、民間事業者等の誘致を進めて行きます。

サウンディング調査について

サウンディング調査とは、民間事業者と対話し、市場性や活用アイデアや事業の可能性を把握する手法です。

- 市の指定した条件（地域の課題解決に寄与する活用等）をもとに、民間事業者の進出可能性を確認したり、進出する場合でも必要な条件（広さ、ルール、市に求める内容、売却方法など）も把握しようとするものです。

槇尾中学校校区、富秋中学校校区においても、同様の調査を実施しています。

今後、光明台中学校校区において、地域の意見などを確認しながら条件を設定し、調査する方法も検討します。

※既存校舎や既存体育館を活用した提案がなされる可能性もあります。

※事業化までに年数を要する場合、事業者が可能性を判断できず、提案がなされない可能性もあります。

5. 意見交換

意見交換のテーマ

- ◆ 新校の建設場所について
- ◆ 跡地に求める機能について

現時点では、民間事業者による活用が基本的な方針になります。

跡地にどのような機能が必要なのか、定住・地域の活性化につながるのかを
視点に、現時点で感じることをお聞かせください。

※なお、跡地利用の活用方針は、活用が可能となる5年前頃から議論を進め、

サウンディング調査などを行い、進めて行く予定です

6. 次回の予定について

次回の予定について

- 次回の意見交換会は、10月頃の開催を予定しています
- この意見交換会では、今後実施を予定している地域説明会やアンケートの内容について、より良いものにしていくための意見交換を行いたいと思います